

令和5年8月28日



# さかもと



さわやかに かがやいて もくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

横浜市立坂本小学校 校長 荒井 正史

今年の夏は、例年よりも天気に関するニュースが多かったように思います。連日の猛暑、台風による被害など、「今年の夏は・・・」という報道が多い夏だったように思います。私が子どもの頃は、30度を超えると暑かったと記憶していますが、今では35度以上が当たり前のようになっていることに気づかされます。「酷暑」「線状降水帯」「記録的な～～」などのことばも頻繁に聞くようになりました。毎年、夏休みが明け、学校が始まる頃には、秋の風や気配を感じていたように思います。今年も残暑も厳しいようです。夏が過ぎるのは寂しい気もしますが、秋の訪れを待ち遠しく感じています。

さて、7月21日(金)に、「ふれあい教室」が行われました。昨年度よりも講座の数が増え、19の教室にて地域の方々、保護者の方々が講師として、子どもたちにさまざまなことを教えてくださいました。「工作」「木彫り」「カラフルフォトフレーム」「ビーズ」「竹細工」「折り紙」「ガラスドームキーホルダー」「バスボム」「ポッチャ」「サッカー」「卓球」「フラダンス」「茶道」「手話」「ボーイスカウト体験」「ドラミングハイ」「プラスバンド体験」「薬剤師体験」「帷子川の水を調べよう」の教室があり、どの教室でも入念な準備をさせていただき、当日は子どもたちが楽しむことができるように、講師の先生方は丁寧に声をかけてくださいました。子どもたちは生き活きと活動を楽しみ、できるようになったことや完成した作品に喜んでいました。教室のなかで私が関心をもったのは、「帷子川の水を調べよう」です。帷子川は、地域の方々からお話を聞くと、川の流れを利用して捺染が行われていたと聞きます。子どもたちにとって、地域にある帷子川について調べたことは、自然環境について学ぶとともに、地域のことにより関心をもつきっかけになったことと思います。「ふれあい教室」の閉会式では、参加した子どもたちに、講師の先生方は地域の方々なので、まちで会ったときなどには、ぜひ声をかけてほしいと話をしました。子どもたちにとって、「ふれあい教室」は、さまざまなことを学んだり体験したりするとともに、地域の方々との出会い、ふれあうことができた貴重な時間になったことと思います。

今年の夏は、町内会や商店街のお祭りに顔を出させていただきました。子どもたちが出店で買った食べ物を食べ歩いたり、くじなどで取ったおもちゃやヨーヨーなどを手にしたりしている姿を見て微笑ましく感じました。私も振り返ると、子どもの頃のお祭りをよく覚えています。私は小学生の頃は毎年、山車に乗って太鼓を叩いていました。地域の方々から太鼓を教えていただいたり、声をかけていただいたりしたことは、今振り返ると懐かしく、あたたかい思い出です。

私は、本校に着任して、「さかもと」のまちは本当にあたたかいまちであると感じています。地域の方々から子どもたちを大切に育てていこうという想いが伝わってきます。学校の教育活動のなかでもたくさん地域の方々にご支援をいただいています。子どもたちは、さまざまな方々と出会い、ふれあうことによって、多くの貴重な体験をしています。坂本小学校の子どもたちが、将来、子どもの頃を思い出すとき、ふるさとを大切に思い、懐かしくあたたかい気持ちになるような、そんな出会いやふれあいをこれからもたくさん積んでほしいと改めて思う今年の夏でした。

今日から、学校が始まります。見守り隊の方々には残暑厳しいなか、子どもたちの登下校を見守ってくださりありがとうございます。これからも地域の方々、保護者の方々、関係諸機関の方々とともに、地域の大切な子どもたちを育てていきたいと思っております。